



## POINT 1

## 態度

## 目標に向かって主体的に学習に取り組むための工夫

普段から目標を意識した授業設定を繰り返し行い、目指す姿を具体化することで、子どもは目標を実現するために主体的に考えて行動しようとする。

## 1 パフォーマンステストの目標設定

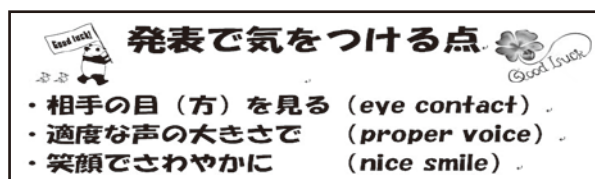
パフォーマンステストは、子どもに習得した「知識及び技能」を実際に活用させる形で、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」などを評価するためのテストとして有効である。『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語（国立教育政策研究所、2020年3月）によると、パフォーマンス評価は「学期に1回程度」と記されている。

本実践では年2回、前・後期末にパフォーマンステストを行い、子どもと教師で1対1のやり取りを行った。

複数の単元を組み合わせたパフォーマンステストでは、扱うことのできる言語材料が増え、コミュニケーションの目的や場面、状況などを基に目標設定しやすくなるだろう。

## 2 パフォーマンステストを軸とした「主体的に取り組む態度」の育成

パフォーマンステストに向けて、普段の授業でモデルを何度か示す。それらを見て、「どのような発表がよいか」という問いに対して、自分たちで考え、意見を交流することで、その姿を明らかにしていく機会を設定する。具体的な姿の提示を見て、よい点を共有することで「目指す姿」が子どもの目標となっていくだろう。右上に示した例は、実際のパフォーマンステストにおいて子どもたちに示したものである。



【発表での「目指す姿」の例】

「目指す姿になるために今何をするか」を考える逆算の考え方が重要であり、まさにパフォーマンステストが効果的であると考ええる。

この工夫により、目的意識をもって活動に取り組む効果が期待できるだろう。

## 3 「目指す姿」に向けた目標設定

「目指す姿」を具体化するためには、「単元の終わりには何ができるようになるか」という学習到達目標を表したCAN-DOリストを子どもと共有することが有効と考える。

また、1年後の理想とする姿に向けた目標設定、中学校へつなげる中・長期的な目標設定、英語で何ができるようになりたいかの将来的な目標設定も大切だと思われる。

目標を意識して学習に向かうことで、「なんとなくやる」「言われたからやる」から脱却し、「こういう姿になりたいからやる」に変わっていく。このように具体的な目標設定をすることで、主体的に学習に取り組むことができるだろう。

| 学習到達目標 (Can-Do リスト) |                                            |                                         |                                                                       |
|---------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
|                     | 単 元                                        | 話すこと(やり取り)                              | 話すこと(発表)                                                              |
| 後期                  | Lesson 9<br>Junior High School Life (10時間) | 中学校生活について簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる (つ) | 中学校で入りたい部活動や楽しみにしている学校行事について、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる (つ) |

【単元におけるCAN-DOリストの例】

# をもって授業に取り組むことの効果

幕別町立札内南小学校 主幹教諭 市川 篤志



小学校4学年

小学校6学年

中学校2学年

## POINT 2

思・判・表

### パフォーマンステストを位置付けることとその効果

パフォーマンステストを位置付けることで、既習事項を基に課題に取り組み、実際の使用場で英語を活用することにつながる。

小学校外国語科においては、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成には、既習事項を活用する言語活動を設定することが望ましいと考える。

発表とインタビューのパフォーマンステストでは、「話すこと [発表]」と「話すこと [やり取り]」の双方を見取ることができる。また、教師と対面し、テストの指示や質問など全てを英語で行うことで、子どもたちは理解していること・できることを基にしてテストに取り組むこととなる。これにより、「思考力、判断力、表現力等」を育成することができるだろう。

ここでは、6学年で実際に行ったパフォーマンステストの実践を紹介したい。

#### 1 パフォーマンステストの内容

単元「あこがれの中学校生活」において、中学校の部活動や学校行事の中で自分が取り組みたい内容でワークシートを作成し、教師に対して発表を行う。また、発表後は既習事項に関する3つの質問に答えるという、発表とインタビューを合わせる形式を設定した。

発表では、ワークシートを提示しながら、自分の考えを相手に届けるという意識をもって伝えた。その後は“What do you want to be?”や“What’s your best memory?”“What country do you want to visit?”などの質問に対して、既習事項を使って返答することができると確認することとした。



【パフォーマンステストの様子】

#### 2 A E T の積極的な活用と評価基準の共有

パフォーマンステストでは、実際の使用場における言語活動とするため、A E T が発表の聞き手、インタビュアーとなり、評価を行う。そのため、会話の全てが英語となり、それを自分の力で乗り越えることで子どもの自信につながると考える。

評価基準については、下記の表に記載されている内容を共有して評価を行う。ネイティブ・スピーカーであるA E Tと連携した指導は、子どもたちの英語力の向上にも大きく影響するだろう。

| Evaluation Criteria 【Thinking / Discernment (judging) / Expression】 |                                                             |                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| Evaluation                                                          | Speaking(Communication)                                     | Speaking (Presentation)                                                                |
| A                                                                   | Question and Answer<br>Students can answer 3 questions.     | Excellent (Well organized speech, clear voice and good eye contact) Very communicative |
| B                                                                   | Question and Answer<br>Students can answer 1-2 questions.   | Good (organized speech, clear voice and eye contact) Communicative                     |
| C                                                                   | Question and Answer<br>Students can't answer any questions. | Not good (not organized speech, not clear voice and no eye contact) Not communicative  |

【ルーブリックの評価基準例】